

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）
-----	---------------

1. 次の資料に基づき、(1) 先入先出法、(2) 平均法によって、当月の完成品総合原価と完成品単位原価、月末仕掛品原価を計算しなさい。当月の生産データおよび原価データは次のとおりである。

〔生産データ〕

月初仕掛品	50個	(20%)
当月投入	85個	
合計	135個	
正常仕損	10個	
月末仕掛品	25個	(80%)
完成品	100個	

※（ ）内は加工進捗度を示している。

※材料はすべて始点で投入している。

※仕損は工程の終点で発生している。

〔原価データ〕

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥5,340	¥1,080	¥6,420
当月製造費用	¥8,160	¥14,520	¥22,680

(1) 先入先出法

完成品総合原価	円
完成品単位原価	円
月末仕掛品原価	円

(2) 平均法

完成品総合原価	円
完成品単位原価	円
月末仕掛品原価	円

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）
-----	---------------

2. 次の資料に基づき、(1) 先入先出法、(2) 平均法によって、当月の完成品総合原価と完成品単位原価、月末仕掛品原価を計算しなさい。当月の生産データおよび原価データは次のとおりである。

〔生産データ〕

月初仕掛品	50個	(20%)
当月投入	85個	
合計	135個	
正常仕損	10個	(50%)
月末仕掛品	25個	(80%)
完成品	100個	

※（ ）内は加工進捗度を示している。

※材料はすべて始点で投入している。

※仕損は加工進捗度 50%地点で発生している。

〔原価データ〕

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥5,340	¥1,080	¥6,420
当月製造費用	¥8,160	¥14,520	¥22,680

(1) 先入先出法

完成品総合原価	円
完成品単位原価	円
月末仕掛品原価	円

(2) 平均法

完成品総合原価	円
完成品単位原価	円
月末仕掛品原価	円

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）
-----	---------------

3. 次の資料に基づき、完成品原価、完成品単位原価、月末仕掛品原価を求めなさい。月末仕掛品への原価配分方法は平均法によること。

① 当月の生産データ

月初仕掛品	50個	(20%)
当月投入	85個	
合計	135個	
正常仕損	10個	(50%)
月末仕掛品	25個	(80%)
完成品	100個	

※（ ）内の数値は加工進捗度を示している。なお、材料はすべて工程の始点で投入された。

② 当月の原価データ

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥5,340	¥1,080	¥6,420
当月製造費用	¥8,160	¥14,520	¥22,680

③ 非度外視法により計算すること。

完成品総合原価	円
完成品単位原価	円
月末仕掛品原価	円

4. 次の資料に基づき、完成品原価、完成品単位原価、月末仕掛品原価を求めなさい。月末仕掛品への原価配分方法は先入先出法によること。

① 当月の生産データ

月初仕掛品	40kg	(50%)
当月投入	260kg	
合計	300kg	
正常仕損	50個	(40%)
月末仕掛品	50個	(80%)
完成品	200個	

※（ ）内の数値は加工進捗度を示している。なお、材料はすべて工程の始点で投入された。

② 当月の原価データ

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥16,000	¥7,200	¥23,200
当月投入原価	¥81,900	¥83,160	¥165,060

③ 正常仕損はすべて当月投入分のみから生じており、非度外視法により計算すること。

完成品原価	円
完成品単位原価	円
月末仕掛品原価	円

テーマ	総合原価計算（仕損・減損）
-----	---------------

5. 製品Yを量産するC工場では、実際単純総合原価計算を採用している。次の資料に基づいて、先入先出法による場合の
 (1) 完成品総合原価、(2) 総合原価計算表、(3) 完成品単位原価を求めなさい。ただし、原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分するためには先入先出法を用いている。

〔資料〕

① 当月の生産データ

月初仕掛品	120個	(1/2)	
当月投入	960個		
合計	1,080個		
正常仕損	80個	(1/4)	
月末仕掛品	100個	(4/5)	
完成品	900個		

※ () 内は加工進捗度を示している。

② 当月の製造原価データ

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥244,440	¥248,880	¥493,320
当月製造費用	¥2,069,760	¥4,064,560	¥6,134,320

③ 製品Yを製造するのに必要なA材料は工程の始点で投入している。

④ 正常仕損は進捗度 1/4 の時点で発生しているので、正常仕損費は完成品と月末仕掛品に負担させる。この際、正常仕損は最初から投入されなかったように考える、いわゆる度外視法による計算方法を用いる。なお、月初仕掛品からは仕損は発生しない。

	(1) 完成品総合原価	(2) 月末仕掛品原価	(3) 完成品単位原価
先入先出法	円	円	@ 円